

小山地区自治会連合会

相模原市の表玄関として 生まれ変わる「小山」



小山地区の概要

小山地区は、JR横浜線の主要駅である相模原駅を中心とし、市役所等多くの官公署への玄関口として発展し、本市の拠点の一つとして位置づけられています。

相模総合補給廠が区域の約65%を占めており様々な課題が生じております。

自治会数は9自治会でJR横浜線を挟んで南側に4自治会、北側に5自治会で構成されております。また、北側の2自治会は境川を挟んで東京都町田市に接しております。

平成20年4月1日現在の自治会加入世帯数は5,437世帯であります。

10年間のあゆみ

平成10年に開催された「かながわ・ゆめ国体」において市立横山公園内のグリーンプールでの水泳全国大会を契機として相模原駅から上溝方面へ通じる「さがみ夢大通り」をはじめ、駅周辺地区に高層マンションや商店街が形成され、特に駅ビルにおいては、駐車場や食料品、衣料品等の商店が多く設置され、また、「市民ギャラリー展示室」等の活用が著しく進んでいます。

また、駅のペDESTリアンデッキができたことによりJR横浜線の利用客の利便性や利用環境が良くなり、駅を中心に東西南北地域の活性化に通じる街の形態となってきました。

しかし、本地域にとっては橋本や相模大野と比較すれば駅北口地域の広大な相模総合補給廠の問題が非常に大きくまちづくりに弊害を及ぼしている現実があります。

この10年間、地域においては市行政関係と協力し早期の基地返還運動について多くの行事を推進してきました。特に駅前公園での大集会の開催や多数の住民参加によるデモ行進などを開催し、キャンプ座間の司令部や外務省、防衛省等への陳情等を繰り返し進めた結果、平成18年5月において、補給廠の一

部返還が決定され、新たな方向付けによる「まちづくり計画」を地域の住民が組織する「住みよい小山をつくる会」で策定し、平成19年3月に市へ「相模総合補給廠一部返還に伴う跡地利用に関する意見書」を提出しました。

そして、平成20年5月には小山地域まちづくり会議によって様々な重点項目をとらえ、新たな計画による提言書を提出しました。

地区自治会連合会の活動

地区連の活動拠点は小山公民館で自治会長、会員が公民館運営協議会のメンバーとして活動しています。地区連の行事は公民館と地区社協と協力して推進していますが、平成15年から夏季の盆踊り大会を向陽小学校校庭で開催することとし、米軍補給廠からも軍楽隊が参加し、地域からも多数の女性が盆踊りの踊り手として参加しています。

また、平成18年度に駅周辺まちづくり推進連絡協議会を発足させ、自治会長のほか商店街役員などと協力して事業を推進しています。そのほか、避難所運営協議会が平成20年度に発足し、地域の防災訓練をはじめ、いざというときの避難所に向陽小学校を指定し災害に備える活動をしています。

また、小山地区ケア会議（包括支援センター）を年に数回駅前の総合相模更生病院で開催し要援護者の対策を進めています。

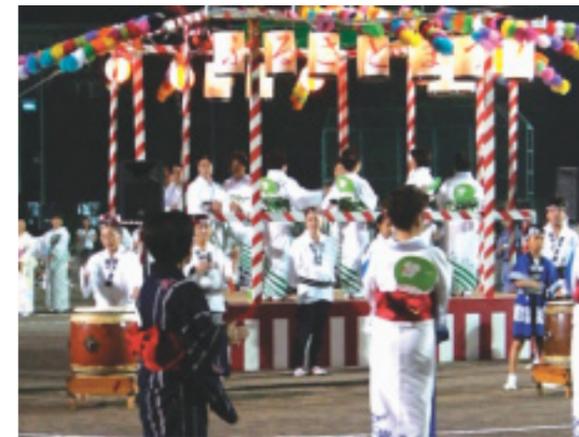
今後の課題

相模総合補給廠一部返還用地の15haに公共及び民間施設等の建設を促進すること

共同使用の35haについて地域活動が出来るように進めること

小山公民館の増改築の促進を図ること
現状では会議室などが狭小であるため利用者の増加に対応できる施設とすること

リニア中央新幹線の新駅を相模原駅に誘致することを今後、様々な機会をとらえて進めること



ふるさとまつり盆踊り



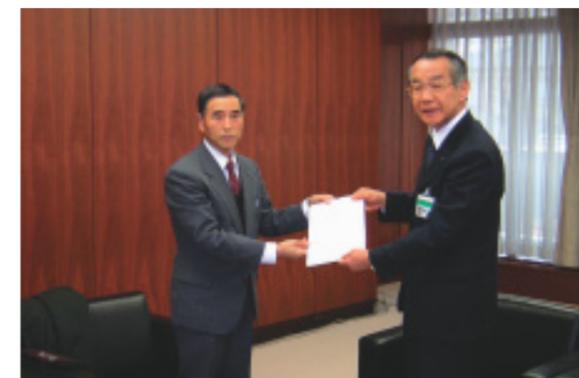
ふるさとまつり運動会



防災訓練



相模原駅南口ペDESTリアンデッキイルミネーション



住みよい小山をつくる会 提言式



相模総合補給廠 航空写真

清新地区自治会連合会

子や孫に誇れる まちづくりをめざして



はじめに

清新地区に住む地域住民の人口は、平成11年当時の15,000人から10年後の平成20年には28,000人へと約1.9倍に膨れ上がりました。

一方、地域コミュニティの活性化を知る上で、重要な尺度となっている自治会会員数の推移は、平成11年5,781世帯、平成15年6,219世帯、平成20年6,306世帯と、この10年間で、1.1倍程度の増加にしかならず、住民の増加が自治会会員数の増加に結びついていないことがわかります。特に、他からの転入住民の自治会離れ傾向が伺えます。

この10年間のあゆみ

- 平成13年 2月 「ふれあい・いきいきサロン」開設(現在10団体活動)
- 平成13年 4月 古い体育館を解体し、清新小学校体育館完成
- 平成14年 3月 旧小山公園跡地に小原公園開園
- 平成15年 3月 JR相模線傍の16号線陸橋下に連絡通路開通
- 平成15年 4月 旧小山公園跡地に小山小学校開校
- 平成16年11月 清新小学校創立50周年記念行事開催
- 平成17年 3月 旧日金工跡地に小山公園開園
- 平成18年10月 南橋本駅東西自由通路及び橋上駅舎完成
- 平成19年 3月 南橋本駅前東西の駅前広場完成
- 平成19年 3月 相模原7丁目公園開園
- 平成20年11月 清新公民館創立50周年記念行事施行

小山小学校の開校

清新小学校は、清新地区の児童数増加に伴い、児童数日本一のマンモス校へと膨れ上がりました。校舎の増築に継ぐ増築は、児童に不便を強いることになり、教育環境に多大な悪影響を及ぼしました。

新設小学校の開校を地元要望活動として、清新地区自治連を中心に関係方面に陳情を続けた結果、平成15年4月に新たな試みとしてオープン教室化された「地域開放型」の小山小学校が開校されました。

長年の課題であった清新小学校が分割されることになり、日本一のマンモス校が解消され、規模の適正化が実現しました。

ふるさとまつり

清新地区の伝統行事として、昭和53年に始まり、31回を重ねる「清新ふるさとまつり」は、地域の夏

の一大イベントとして地域住民にすっかり定着しており、毎年参加人数が増加しています。(平成20年度17,000人参加)

会場の清新小学校の広いグラウンドが人の波に埋め尽くされ、ムンムンとした人々の熱気で溢れ返ります。地元自治会を中心に運営される20を超える模擬店、そして、夜空を焦がす花火大会は圧巻です。今後も「清新ふるさとまつり」は、子ども達の思い出と、地域住民のふるさとづくりをめざして清新地区の大切な伝統行事として引き継いでまいります。

自治会館の建設機運が盛り上がる

地域自治活動の拠点として、欠くことが出来ない自治会館の建て替え、新築ラッシュが続き、清新地区に3つの自治会館が完成しました。

- 平成11年 9月 小原町自治会館完成
- 平成15年11月 すみれ自治会館完成
- 平成17年 3月 小山2丁目自治会館完成

現在、これらの新しい自治会館を利用して、自治会活動が活発に行われております。また、自治会関係のみでなく、地域の各種団体が多く利用することにより地域活動が盛んになり、清新地区の自治会活動のレベルアップが図られております。

おわりに

急激な人口増に伴う、地域コミュニティの崩壊とそこから来る地域住民の連帯感の喪失は、「安全・安心のまちづくり」を推進する上で、清新地区のみだけでなく、相模原市全体の共通問題となっています。

このような状況下で相模原市全域が突然の大災害に見舞われたとき、自治会員のみならず、学校、公民館、その他多くの団体関係者が整然と決められた手順に従った避難行動をとるためには、地域住民の全てを対象とした定期防災訓練の実施が求められています。そして、地域全体をまとめる清新地区自治連と各避難所別自治会の訓練内容をすみ分けし、防災訓練のさらなる充実を図る必要があると言えます。



相模原駅近郊に相模原7丁目公園開園(H19年)



大きく拡張された清新小学校体育館(H13年)



昭和53年から続いている真夏のイベント「清新ふるさとまつり」



16号線陸橋下に連絡通路開通(H15年)



南橋本駅に東西自由通路完成(H18年)



地域開放型の小山小学校開校式(H15年)



ニュースポーツ広場を備えた小山公園開園(H17年)

横山地区自治会連合会

みんなで 街づくり
おらが街 横山

横山地区は、戦前の区画整理事業の実施により、整然としたまちなみが形成され、都市基盤の整備も進んだ、住みやすく恵まれた地域であります。幹線道路である国道129号や、生活道路も整備され、道路交通面での利便性は高く、また、横山丘陵緑地などのまとまったみどりも隣接し、自然環境も良好であります。

ここ10年を振り返ってみると、地区全体が大きく変革する様な事項はありませんが、諸先輩が築いてきてくれたことをベースに時代のニーズに合わせて改善されてきたことがありますので紹介させていただきます。

横山子どもセンターのオープン

長年の夢であった「横山子どもセンター」が、平成20年4月横山小学校校庭の東南角地にオープンしました。建設予定地や予算的な問題があって、旧市内において最後の方で、取り残された存在となっておりました。数年前から建設委員会を立ち上げ、協議した結果、やっと念願のオープンとなりました。あらためて地区内の皆さまのご理解ご協力と行政サイドのご支援に感謝申し上げます。

愛称も「てるてこどもの城」と決定し、多くの子どもたちが元気よくはしゃぎ回っております。

今後の地区内の子育てに大いに貢献していくことと思っております。

盆踊り大会

「横山地区ふるさとまつり」として、例年8月に横山小学校校庭にて盆踊り大会を地区を挙げて盛大に開催しております。今年は小雨にたたられましたが、例年4~5千人の人出があり、各自治会の模擬店や、盆踊りの輪となる櫓の周囲には正に“祭りの人だかり”です。

また、自慢できる横山地区だけの音頭があります。以前、地区内の単一自治会で生まれた曲をリメイクし、新「横山音頭」としてリバイバルさせました。

歌は地元歌手の方に、レコーディングも地元の技術のある方にボランティアをお願いして立派なCDが出来ました。櫓も昨年、長年使ってきた重量鉄骨から軽量鉄骨にリニューアルして設営の簡素化の改善を図りました。

どんど焼き

例年1月上旬に、横山地区を挙げて「どんど焼き」を開催しております。市内でも、地区全体で実施しているのはめずらしいと思います。以前は、子ども広場等で実施していましたが、近年は横山小学校校庭に移し、盆踊り大会と同様に各自治会の模擬店や、太鼓演奏などの出し物にも工夫しております。また、多くの方にご参加いただくよう、団子は千人分を無料配付しております。

高々と燃え上がる火柱に太鼓演奏・お囃子・獅子舞と会場の雰囲気は一気に盛り上がります。正に、“わが地区の風物詩”です。その炎で焼いた団子をそれぞれに食し年内の幸いを願い、厄を落とします。

横山地区運動会

公民館と地区自治会連合会の共催で、例年秋に横山小学校校庭で運動会が開催されます。

自治会対抗・子ども会対抗・老人会対抗と種目は多種ですが、各団体の意地をかけて熱の入った競技が繰り広げられます。また、多くの方に参加していただくよう、玉入れやパン食い競争などの種目も取り入れ、子ども・大人・お年寄りと年代を越え、地区全体のコミュニケーションがとれる場でもあります。

最後に

横山地区は、多くは新興の開発地であり他から移られて来られた方が大半だと思いますが、逆にそんな環境もあって、地区全体のまとまりも良く、最近では、防犯や防災といったことでの活動も盛んです。

防犯では、11の防犯パトロール隊の活動や子ども会を中心とした下校時の見守りパトロールなど、活

発に活動を推進しております。また防災については、今年度、地区を挙げて防災訓練を実施しました。

今後、さらに住環境の向上を目指した課題や、少子高齢化問題などの難問がありますが、まとまりの良い横山地区が一致団結して住みよいまちづくりが進んでいくことを望んでやみません。



どんど焼き



横山地区運動会



H20.9.7横山地区防災訓練



H20.4オープンの横山子どもセンター(てるてこどもの城)



8月末に行われる「盆踊り」

中央地区自治会連合会

安全・安心な 街づくりをめざして



地区の概要

中央地区は、“相模原・中央・千代田、矢部、富士見、相栄”の4ブロック33自治会で構成されています。“相模原・中央、富士見”地区は官公庁街で、“矢部”地区を含めて高層ビル、高層マンションの建設が多く見られ、人口増加が著しく市の中心部に位置します。また交通面では、国道16号線、JR横浜線が走り東京、横浜方面への通勤、通学、買い物等の利便性が良く利用者も増大している。相模原市の祭典として春の桜まつりは、市の一大イベントとして多くの人びとの交流を深めている。“富士見、相栄”地区は、公共施設、なかでも公園、学校（小学校3、中学校2、高校1）が多く、緑豊かで閑静な住宅街でもある。人口の増加に伴い児童・生徒の数も多くなり平成14年4月に新設された富士見小学校は、近代的な設備と学習環境、生活環境にやさしい学校であり、地域住民の人気も高い。淵野辺公園は、キャンプ跡地の広大な土地につくられ、スポーツ、散歩等地域住民のみならず相模原市民のいこいの場として、多くの人に親しまれている。

自治会活動について

1) ふるさとまつりと町民運動会

ふるさとまつりは、地域内の住民ふるさと意識の高揚と住民相互の親睦を図り、心の通いあう明るい街づくりを目指すことにより、地域の発展に寄与することを目的に毎年夏に33自治会が主体となり模擬店、吹奏楽（中学校、高校）、盆踊り、バンド演奏等の催し物があり盛大に開催され、なかでも吹奏楽は、地域の皆さん方に大変評判が良くうけております。平成20年度で第32回目となりました。

また町民運動会は、33自治会を10チームに分け幼児から高齢者まで（三世代）運動を通し親睦とコミュニケーションの輪を広げより良い人間関係をつくることを目的に開催されております。平成20年度で第51回目になります。

2) 防災、防犯活動

防災対策

近い将来発生が予測されている大きな地震、水害等の災害発生に備え、災害から尊い人命や財産を守り、被害を最小限にするため各自治会では積極的に防災訓練を実施している。地区自治会連合会では、毎年視察研修の実施及び防災資機材を配付し防災対策の強化を図っている。

防犯対策

人口増加、社会環境の変化により、平成14年頃から犯罪（ひったくり、空き巣、自動車・自転車の盗難、不審者出没）が多発傾向にあり、その中で相栄地区の自治会長が中心となり“相栄地区防犯ジョイント・サーティ”を組織して、パトロール、防犯啓蒙運動、講演会等の活動をし防犯に関する意識の高揚を図っている。各自治会でも、PTAのお母さん方、高齢者団体等の協力を得て『自分達の街は、自分達で守る』を合言葉に地域パトロール（夜間、登・下校通学路、わんわんパトロール、青パトカー巡回）を実施し犯罪に対し“抑止力”を与え防犯対策を強化している。

3) 各自治会活動

各自治会では、夏祭り、盆踊り、もちつき大会、カラオケ大会、ボウリング大会、地域清掃、バス旅行等で地域のコミュニケーションの輪を深め活発な自治会活動を展開している。

街の安全・安心を目指し、ゴミ置き場の徹底清掃を各組ごとに輪番制を決めてゴミ出しの分別区分を住民に徹底指導をしている。

地域の公園の管理清掃を目的として、公園周辺に花壇を造り美化運動を実施している。

今後の課題

安全・安心で住みよい魅力ある街づくりの推進
（地域住民の意識の高揚）

自治会加入率の向上

（マンション、若い世代への呼びかけ、行政との連携）

高齢者への福祉の増進

（バリアフリー化、高齢者の生活環境の見まわり）

自治会集会所や公園、広場の設置

（行政との相談、交渉）



中央地区ふるさとまつり



防災訓練



中央地区町民運動会



緑豊かな公園(富士見公園)



相栄地区防犯ジョイント・サーティ 防犯パトロール



富士見小学校

星が丘地区自治会連合会

★将来も安心、希望の星が丘★



星が丘地域は、出張所を置いていない本庁管内の6地区（小山、清新、中央、横山、光が丘及び星が丘）内でも比較的大規模な集合住宅の少ない地域ですが、人口は微増傾向にあり、『星が丘』、『千代田』及び『横山』の各地区からの、15自治会により当地区の連合会を構成しています。

平成20年度で、創立60周年を迎えた星が丘小学校、同じく50周年を迎えた公民館、同じく16周年を迎えたこどもセンターなどの施設が1箇所にまとまっており、地域の諸活動を通じた交流が容易にできる環境を有しております。

地区の紹介

ここ数年の地域の状況ですが、当地区自治会連合会の単位自治会が管理する13の自治会館（集会所）の内、星が丘1丁目の自治会館が平成11年度に新築されました。また平成14年に暫定的に整備されていた「星が丘ふれあい広場」が、翌年度から正式に供用開始され、平成元年度から供用開始されている「千代田ふれあい広場」とともに、地域の子どもからお年寄りまでが、多目的に利用できる数少ないレクリエーションの場として活用されています。

地域活動に目を向けると、平成14年度から、子ども安全ネットワーク等による防犯ブザーの配布、平成17年度からは、防犯パトロール隊を立ち上げ、開校日は全日、学童の下校時間帯にスクールゾーンを中心に各町内を隈なく巡回し、子どもたちの校外生活の安全に力を注いでいます。また同様に、平成19年度から実施している星が丘小学校子ども安全見守り隊による見守り活動など、地域の宝である子どもたちの健全育成のために地域主導による活発な取り組みが続いております。

この他に実践教育として、昭和45年から実施している千代田地区交通安全教室は、市内の交通安全教室の草分け的存在です。特に子どもと老人の自転車による交通事故を防ぐため、昭和53年に「千代田自転車安全クラブ」が結成され、事故防止活動が一層

強化され、現在に至っております。また、平成17年度から地区社会福祉協議会が実施している千代田4丁目の子育てサロン事業は、市内でも例の少ない自治会館を利用した先進的な取り組みの一つです。

さらに、市内では戦後初めての普通科高校として、昭和39年に開校した県立相模原高校を境に、横山地区自治会連合会と隣接する横山地区では、平成17年度から、横山南部3・5丁目自治会が当地区自治会連合会に仲間入りしました。これによって、1丁目及び4丁目を除く横山地区が、当地区連合会の区域となりました。

地区自治会連合会が主催する地域の行事

- ・夜間自主防災訓練
10項目の訓練内容から構成される市内でも有数の防災訓練です。平成9年から実施しておりますが、当初は、星が丘の4自治会が実施主体でした。平成12年から地区連の主催となり、現在に至っております。夜間訓練としては、市内初の試みでした。
- ・夜間パトロール
地区連、自治会交通部、同防犯部、青少年健全育成協議会、少年補導員、少年指導員、交通安全協会千代田支部、同星が丘支部、星が丘地区交通安全母の会及び相模原警察署の連携により、毎年年末年始特別警戒期間中にチラシの配布などを行う地域内夜間パトロールを実施しています。

これからの星が丘

少子化が叫ばれて久しいですが、昭和54年のピーク時には届かないまでも、星が丘小学校は、平成20年4月1日現在、市内一のマンモス校となっています。当地区自治会連合会では、登校時の同小児童の安全確保のために、神奈川県警察に同小前の交差点改良を要望したり、地区鼓笛隊へ協賛するなど、これまで、さまざまな分野の団体と連携・交流することにより、多くの課題解決に努めてまいりました。

今後も、子どもたちの遊び場の確保や健全育成、

防犯対策といった課題が残る中で、将来にわたって星の輝くまちであり続けられるように、皆様のご協力をいただき、地域住民が一丸となって『安全・安心まちづくり』を進めてまいります。



地区拠点の要 星が丘公民館



平成15年供用開始 星が丘ふれあい広場



市内で初めて実施した夜間防災訓練



市内一のマンモス校 星が丘小学校の登校風景



拠点の一角 星が丘こどもセンター



自治会館を利用した親子サロン事業



警察署員も同行する夜間パトロール

光が丘地区自治会連合会

太陽の光・青い空・ 緑の並木の我が街



光が丘地区の経過

昭和56年に発足した光が丘地区自治会連合会は、その後、地域住民の努力で、自治会館、公民館等、自治会の基盤である拠点づくりや、生活環境の整備改善、安全安心な住みよいまちづくりに、大きな改善が進みました。

社会福祉、交通安全、防犯、防災、消防団、青少年健全育成、環境美化、敬老会、子供会、公民館活動等、各種団体の活動も活発で、各自治会、支部連合の祭や、運動会、また、光が丘地区ふるさとまつりを中心とした地域のコミュニティ活動も大きく促進されてきました。

一方少子高齢化が進む中で、とりわけ高齢化が更に進み、自治会役員のなり手や、地域を支える若い世代の担い手不足等が新たな課題となってきました。

この10年間、光が丘地区の世帯数は33%の伸びを示しているが、人口はほぼ横ばいで、児童数は10年前よりやや増加傾向にあるが、20年前の2,405人とは31%の減少となっています。一方高齢者は2.3倍と急増し、今後の課題となっています。

平成	10年	15年	20年
世帯数	8,066	10,604	10,691
人口	28,940	28,557	28,295
児童数	1,553	1,657	1,665
高齢者数	2,622	4,057	6,149
高齢化率	9.1%	14.2%	21.7%

(児童数5/1、他1/1現在)

光が丘地区の主な活動

1. 自主防災訓練、我が街は自分たちで守る！

近々起こるとされる南関東地震、東海地震、神奈川西部地震等万一の災害の発生に備え、「我が街は、自分たちで守る」という意識と、ご近所の方々がお互いに協力し合い、助け合っていくといった連帯感を培い、安全で安心できる環境を整えておくことは、とても大事なことから、地域防災訓練の重要性が高まっています。

光が丘地区防災訓練は、長年の取り組みもあり、

最近では要援護者支援訓練や中学生の参加と各自治会の自主防災隊新設も増え、一層住民への定着化も促進されてきました。

2. 安全・安心なまちづくり活動

地域の交通事故防止や、子供達の見守り安全、防犯対策、消防団等の活動も活発で、交通安全キャンペーン、交差点改善、通学路改善、通学児童見守り隊、防犯パトロール、さらに地区社協のふれあい交流会による街並み点検活動等も定着しています。

3. 自治会長研修会で切磋琢磨

平成19年度より「自治会の活動、関連団体と組織」等基本事項の学習を行い、全体のレベルアップを図ると共に、いま自治会長が抱えている悩みや課題をテーマにグループ討議を行い、全体の共通認識と解決策等を図る自治会長研修会を実施し、自治会活性化のための活動を展開しています。

4. 陽光台こどもセンター設立

「陽光台こどもセンター」が、24番目のこどもセンターとして、陽光台2丁目の松葉町第1子どもの広場に、平成20年7月に建設が着手され、平成21年4月にオープンします。

光が丘地区の今後の課題

1. 地域住民の交流のための拠点づくり

相模原工業技術高等学校は、昭和48年に開校され、平成17年3月に32年間の歴史の幕を閉じました。

同技高は光が丘地区の中心にあり、地域に親しまれ地域交流のための施設として活用されてきました。

これからは地域住民の交流のための拠点として活用できる様、県、市に対し、住民運動として取り組んでいきます。

2. 安全・安心で環境の良いまちづくり

安全・安心で便利な美しい環境の良いまちづくりは、このまちに住む住民の基本的要望であり、地区自治会連合会としても市と連携し、市民協働の精神でしっかりした活動をしていく様、努力していきます。

3. 高齢化に伴うサポート体制

全市でも高い高齢化率を抱える地区として、弱者、高齢者に対するサポート体制の充実が望まれています。地区社会福祉協議会と一体となって進めていきます。

4. ふるさとまつりの改善

光が丘地区ふるさとまつりは32回を迎え、光が丘

地区を結集する重要な行事となっています。

各種アトラクション、模擬店、民謡流し、花火等内容も充実されていますが、まだ改善点も多く、今後常任委員会を設置し、年間を通して改善対策に取り組んでいきます。



地区連自主防災訓練 緑が丘中学校生徒が参加



交通安全街頭キャンペーン



太陽の光・青い空・緑の並木のふるさとまつり
(光が丘地区ふるさとまつり)



自治会長研修会



青葉連合大運動会